

---

## 海外経済 ～万博後の中国の姿～

経済調査部 西濱 徹

---

### 世界経済の牽引役が期待される中での万博開幕

世界経済における中国の存在感が一段と高まっている。大規模な景気対策によって世界金融危機の影響を逸早く脱し、4四半期連続で前期比年率二桁成長を続けており、今年半ばにも名目ベースの経済規模は日本を追い越す勢いをみせている。5月初めに開幕した上海万博では、世界最大の市場を目指して史上最大の246の国や国際機関が参加しており、開催委員会も大阪万博の記録を上回る7千万人の入場者数を予想している。今回の万博では、「より良い都市、より良い生活（城市、讓生活更美好）」というスローガンを掲げており、これまで政府が目指してきたバランスの取れた経済成長を改めて内外にアピールしている。

### 貧富の差は拡大しながらも、経済の拡大は続く

沿海部と内陸部の格差を埋めるべく、政府は内陸部を中心に大規模な公共投資を行っており、これが現在の中国経済を牽引しているが、現実には高い所得を求めて都市部に流入する出稼ぎ労働者は依然多い。さらに大学を卒業したにも拘らず就職できない「蟻族」が社会問題化するなど、中国社会は大きな歪みを抱えている。しかし、こうした課題を抱えつつも、中国経済の存在感は一段と大きくなっている。昨年自動車販売台数は1300万台を上回り、世界最大の自動車市場となったほか、古美術品など美術品市場でも中国マネーの勢いは増している。また、中国での資源需要の拡大は、世界的な資源獲得競争をもたらしており、将来的な資源価格の高騰リスクも高まっている。万博のスローガンのように、多くの中国国民が都市生活を享受する状況となれば、「暴食」とも評される中国の需要拡大は世界経済にとって恩恵となる反面、少なからずの副作用も懸念されよう。

### 万博は経済モデル転換のきっかけになるか

「万博後」の中国経済については、イベント効果の一巡による景気減速を案ずる声が聞かれる。過去の諸外国の例からも、巨大イベントの実施後には一時的な反動が生じる可能性は少なからずある。しかし、現在の中国経済の発展段階や、通貨切り上げ圧力などの課題は、わが国で例えると高度経済成長期の状況に重なる。中国はこれまで輸出主導型で経済成長を遂げてきたが、公共投資を梃子に内需主導に転換を図っており、今後は内陸部でも個人消費が盛り上がると期待されている。沿海部では不動産バブルの発生が懸念されているが、自動車など耐久財の消費も着実に拡大しており、こうした消費の成長を通じて市場の裾野が拡大することも期待される。今後の中国経済は、人民元切り上げ圧力により低廉で豊富な労働力に依存した産業構造からの脱却を迫られるほか、家計の消費を促すため社会保障制度の充実を図るなど、様々な分野で痛みを伴う構造転換が必要となろう。しかし、これらは中国経済が一段階上のステージに上がるために避けては通れない道である。中国政府自身が上海万博を通して都市化を通じた発展を多くの国民に訴えたことは、現行の歪みを抱えた制度の維持が難しいことの裏返しでもある。中国政府が今後解くべき課題は大きい、その先に広がる世界は依然として大きな可能性を秘めている。

にしはま とおる（副主任エコノミスト）